ひまわり

2026年3月1日
第501号

子どもの主体性を大切にした一年の支援を振り返って

今年度も残りわずかとなり、子どもたちがそれぞれの成長を胸に次のステップへ向かう季節となりました。

日々、子どもたちと関わる中で感じるのは、子どもが自分から関わり、学び、成長していく力は　”遊び“　の中でいちばん豊かに育つということです。こども家庭庁の児童発達支援ガイドラインでも、「遊びや日常生活の活動を通して発達を促すことが重要である」「遊びは子どもの主体的な活動であり、発達の基盤となる」と伝えています。遊びの中でのやりとりは、ことばや気持ちの伝え方を自然に学ぶ機会になり、体を使った遊びはバランス感覚やさまざまな感覚の発達にもつながっていきます。

当センターも半世紀にわたり療育機関として積み重ねてきた経験から、子どもの「やってみたい」という気持ちこそ成長の原動力であると実感してきました。今年度は、その力をより丁寧に支えるため、多職種を配置し、連携しながら支援を進める体制づくりに取り組み始めました。療育指導員が捉えた日々の小さな変化を、言語聴覚士・作業療法士・管理栄養士の専門職と共有し、専門的な視点を加えながら支援の方向性を検討してきました。まだ始めたばかりの取り組みではありますが、子どもの主体性をより引き出す支援へとつながりつつあります。来年度も「遊びが育てる力」を大切にしながら、より良い支援を届けられるよう努めてまいります。

本年度も温かいご理解とご協力をいただき、ありがとうございました。

宇野　亜弓

大垣市立ひまわり学園
発行人　　宇野　亜弓

一年間の療育を通して

療育ってなんだろう?どんな効果があるんだろう?そんな思いを抱きながら学園に来園された保護者の皆様。この一年間、様々な形で療育にご協力いただき、ありがとうございました。ここからは、私たちが療育を通して大切にしている事、お伝えしたいポイントをまとめ、紹介したいと思います。

体操やリズム遊びは、道具を使わず音楽や歌に合わせて手指や体全体を動かす活動で、模倣する力やふれあいを大切にしています。フェルトカードやプリント教材を使って行なうものを、学園では課題遊びと言っています。課題遊びでは、どこが違うのか見比べたり、知っている情報を手掛かりに選択したり、試行錯誤しながら答えに近づいたりといった経験を通して、考える力(思考力)を育てていきます。運動遊びでは、ダイナミックに体を動かして心と体を解放させたり、バランスを取りながら足元に注目し、ゆっくりと渡ったりします。他にも、跨ぐ、くぐる、よじ登る、バランスを取る、揺れる、滑る…など、どれも自分の体の動きに意識を向けながら取り組むことを目的としています。

その他にも『スライム』や『小麦粉粘土』などを使った感触遊び、始まりと終わりを知らせる『始めの会』や『終わりの会』、未就園児を対象にした『おやつ』などがあります。

どの活動にも意味があり、目的を持って療育を行なってきました。その中でも共通して言えるのは、〝ことばでのやりとり〟〝人との関わり〟という点です。

〈関わる中で、ことばは広がる〉

療育者は、子ども達の思いをことばで代弁することを大切にしています。様々な場面で「ちょうだいーどうぞ」や「かしてーいいよ」「もう一回やる?ーやりたい」などのことばを引き出すように促しています。また、「せーの」や「三、二、一」などの掛け声に合わせてスタートする場面も見られたことがあると思います。これは、相手のタイミングに合わせて取り組む力をつけるために行なっています。何気ないことばかもしれませんが、実は人と関わりながら生活をしていく上でとても大切です。

保護者の方に、療育を通してできるようになって欲しい願いをお聞きしていますが、その中で『ことばでのやりとりができるようになってほしい』『怒らずにことばで気持ちを伝えらえるようになってほしい』というものがあります。これは、療育の中だけではできるようになるものではなく、日々の関わりも大切になっていきます。普段からお子さんとの会話の中でことばを引き出し、相手に伝わることばで表現できるようにしましょう。また、ことばで伝えることが難しい子も、指差しや動作などで気持ちを要求し、それに対して丁寧に「〇〇したいんだね、はい、どうぞ」や「△△がほしいんだね」とお子

さんの思いを代弁し、伝え返しをしていくと良いと思います。この日頃のやりとりを繰り返し経験することで、少しずつことばの表現力は身についていきます。

〈声の掛け方を変換する〉

ことばを広げていく上で、子どもへの声の掛け方もとても重要であり、意識する点となります。毎日忙しく生活をしている中で、お子さんと丁寧に関わることの難しさを感じることはありますよね。「早くしなさい」「何やってるの」「ダメでしょ」…。これらのことばは、すんなりと出てきませんか？療育の中で「たくさんお子さんの良いところを見つけましょう」「たくさん褒めてくださいね」「プラスになる声掛けが大切です」とアドバイスをされたことがあるかと思います。しかし、具体的にどう褒めると良いのか、プラスのことばとは何か、分からないことが多いのではないでしょうか。

まずは声の掛け方を変換していくことを心掛けてみてはいかがでしょうか？例えば、「走っちゃダメ」と言われると、〝注意された〟ということは分かりますので、その時は動きが止まります。しかし、〝どうすることが正解か〟が分からずに、また同じことを繰り返してしまいます。「走っちゃダメ」ではなく、「お母さんと手を繋いで歩こうね」と具体的にどうすると良いかを伝えてみると良いと思います。また、「早くしなさい」と急いで準備や片付けをするように促しても、すぐには行動に結びつきません。この場合も「玩具をカゴに入れてね」「時計の針が〇になったら、保育園に行く時間だよ。それまでに準備しようね」など、具体的に何をすると良いのかを伝えたり、見通しが持ちやすいように声掛けをしたりすると良いでしょう。

これらの声の掛け方の変換方法は、咄嗟には出にくいものです。しかし、療育者はお子さんと関わる中で、〝どのように伝えたら分かってもらえるかな〟〝ことばだけで難しい時は写真を使おう〟と、試行錯誤を繰り返しながら声を掛けています。〝こういった場合は、どうしたら良いんだろう〟と思うことがありましたら、療育者に相談をして下さい。一緒に良い方法を見つけていきましょう。

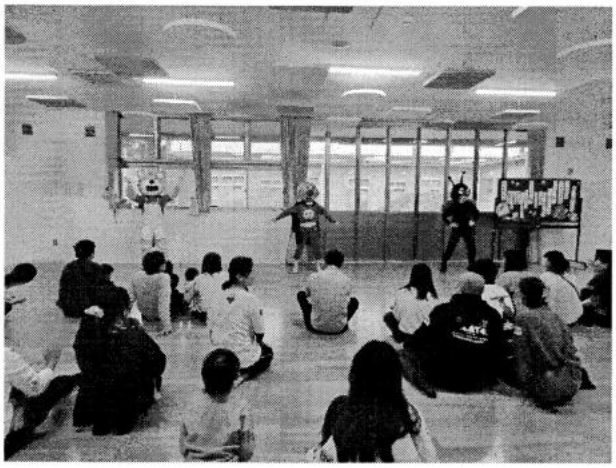
療育は継続することで少しずつ効果が表れるもので、目に見えて劇的に変化をすることは少ないかもしれません。〝今〟の姿を見ると、もっとこうなって欲しいという願いは尽きないですが、半年や一年という長い年月を振り返ると、子ども達は必ず成長をしています。そのことに気付くことやお子さんの良いところを喜べることが、子ども達にも伝わり、さらに成長を促すことに繋がります。

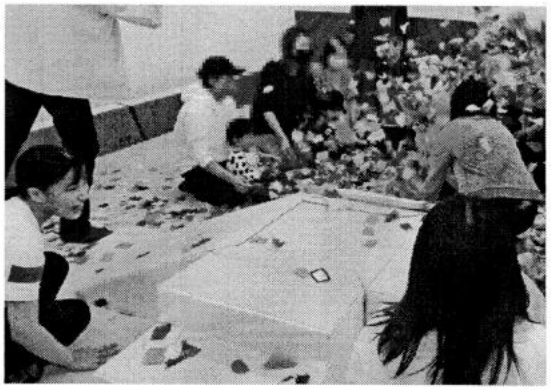
私達療育者も〝子ども達の頑張り〟を見つけてはその場で具体的に伝え、少しずつでも〝できること〟が増えていくように、一年間療育を行なってきました。それは、今年度だけでなく、来年度も継続して行なっていきます。保護者の皆様も、是非お子さんとの遊びを楽しみ、〝こんなことができて、すごい！〟と思う姿をたくさん見つけてください。

（文責　安田）

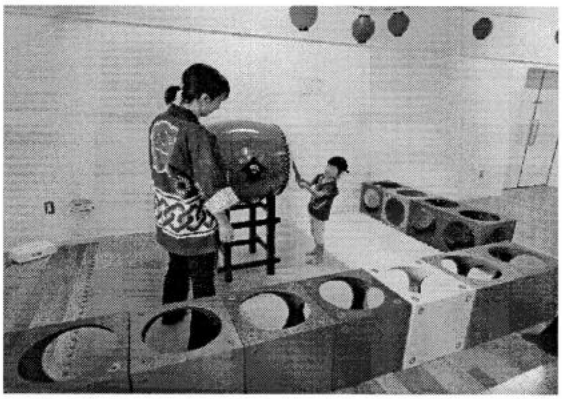
一年間の行事を振り返る

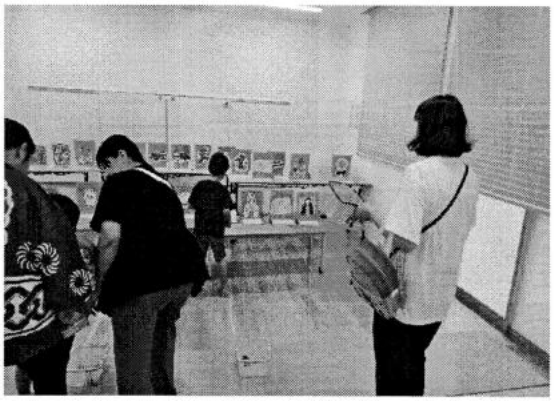
親子で遊ぼうの会
（未就園児対象
六月・十一月・二月開催）

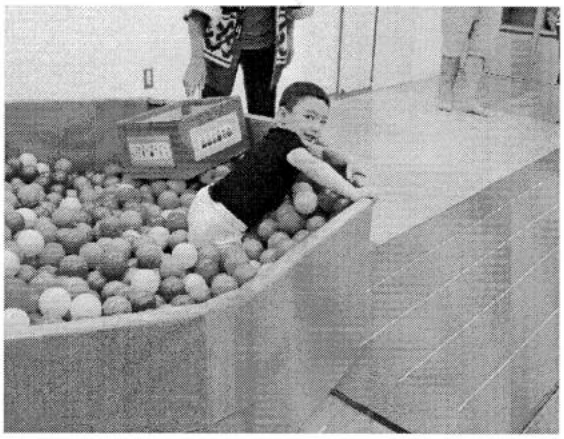


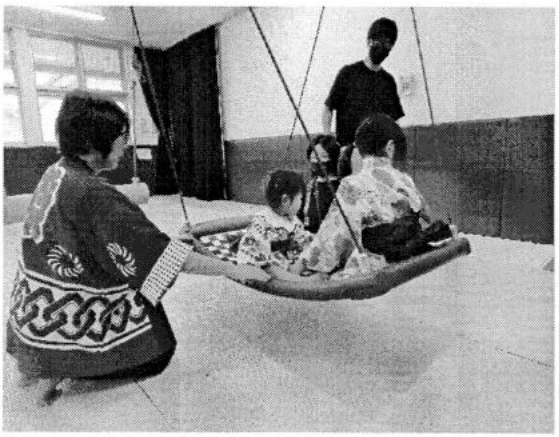


夏祭り週間（八月開催）

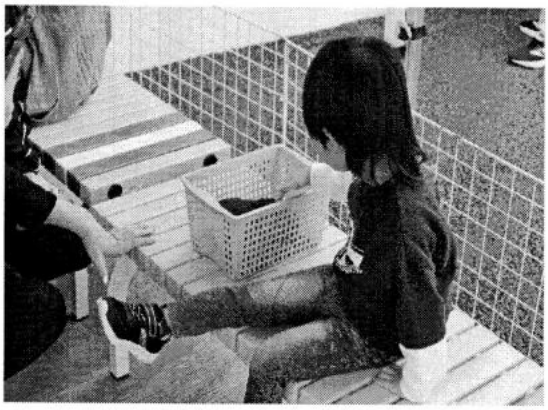


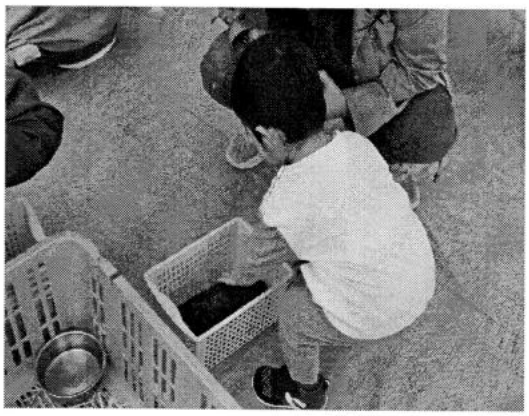


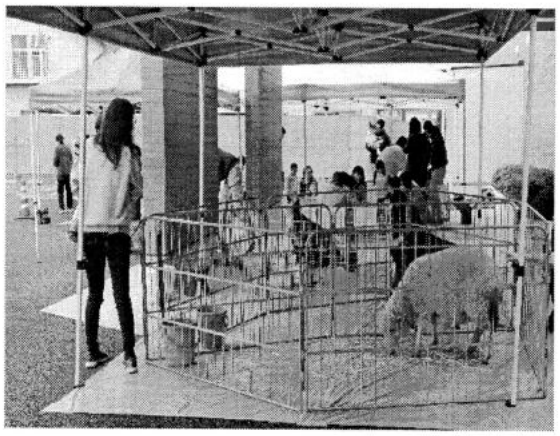




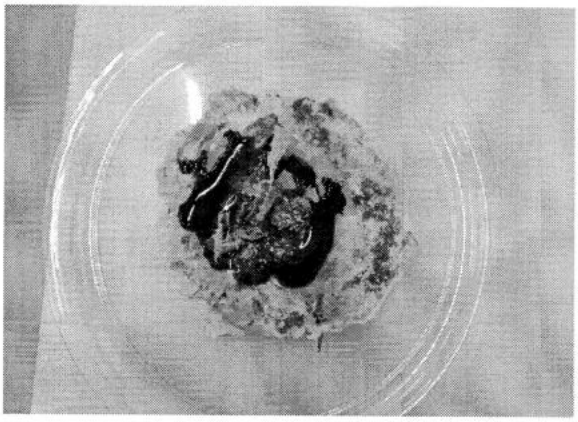
移動動物園（十月開催）

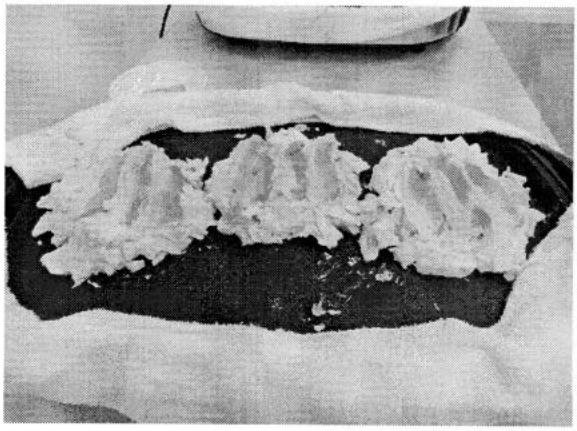


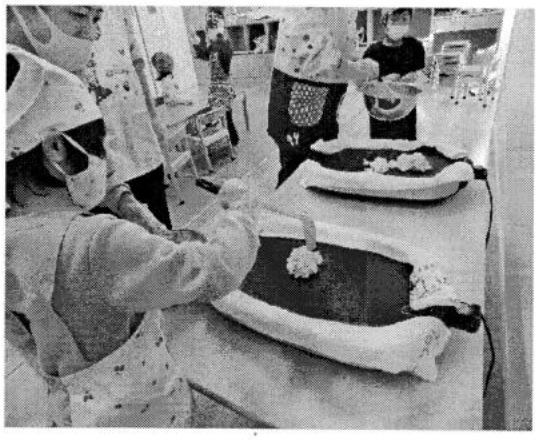




調理実習（四・五歳児対象　十二月開催）







ちょこっとコラム～地域の資源について～

大垣市のホームページに【子どもの居場所】が紹介されているのをご存じでしょうか。令和七年七月から新しく開設された『スイトピアこどもんち』と、『ほっとできる「ほっとな居場所」』が紹介されています。『スイトピアセンターこどもんち』は、毎週水・木・金曜日の 十四時から十七時まで図書館三階で開設されています。『ほっとできる「ほっとな居場所」』は民間施設(十か所)と公共施設(九か所)があります。各施設の情報は子どもの居場所開催カレンダーで確認ができます。ひまわり学園にも玄関に紙面で置いてあります。

大垣市は家庭や学校とは違う環境の中で、子どもが地域の方々に見守られ安心して過ごせる場所作りを進めており、今後も増えてくると良いと思います。

また、大垣市以外にも、お子さんがたくさん体を動かしたり様々な体験をしたりできる施設が多くあります。関ケ原町や養老町、海津市、神戸町や本巣市など西濃圏域や近辺に無料で楽しめる場所がありますので、家族で楽しい余暇を過ごしてみるのも良いと思います。

福祉の豆知識～ユニバーサルデザインについて～

皆さんは、『ユニバーサルデザイン』ということばを聞いたことはありますか。障害(バリア、壁)のある人の障害を取り除くバリアフリーとは違い、最初からバリアがない設計をめざし、すべての人が利用しやすいように工夫されたデザインのことです。身近なものに、自動ドアやエレベーター、多機能トイレなどが挙げられますが、日常の中にも見ることができます。例えばシャンプーには、蓋やボトルにギザギザの印がついています。リンスにはついていません。洗髪中に目を閉じたままでも間違えずに使えるように工夫されています。牛乳パックをよく見ると、注ぎ口の反対側の上部に小さなくぼみがあります。このくぼみのことを『切り欠き』と呼びます。目が不自由な人でも牛乳だと判断ができるようにするためです。お酒の缶には、目の不自由な人がお酒とジュースを間違えないように、点字で『おさけ』と表してあります。

ユニバーサルデザインは、あらゆる人にとって利便性が向上し、誰もが豊かに暮らせるために大きく役立っています。街中やお店で見つけてみるのも良いですね。

(文責　矢島)

食育コラム ～今年度の振り返り～

今年度は、療育での食育活動やクッキングなどを行ないました。一、二歳児のクラスで行なったパペットを取り入れた食育活動では、食べ物の模型を触ってみたりアンパンマンやバイキンマンのパペットに食べさせてあげたりと、食べ物について知る時間を作ることができました。三～五歳児のクラスで行なった紙芝居では、食材の名前を答えたり、三色食品群の役割を知ったりすることができました。食材カードがどの食品群に当てはまるかを、自分たちで考えて貼ることもできました。

十二月には、四・五歳児を対象にクッキングを行ないました。ちぎる、切る、計る、混ぜるなどに挑戦して、子ども達は、真剣に取組むことができました。また、自分たちで作ったものを友達や保護者の方と嬉しそうに食べる姿も印象的でした。クッキングが終わってから、「家で作って食べたよ」という声も聞こえ、とても嬉しく思います。家庭でお子さんと一緒に料理するのは、なかなか難しいかもしれませんが、自分で作るということが『食への興味』につながり、食べるきっかけになることもあると思います。また、食材を見て、触ることは様々な食材を知る、とても良い機会になります。三月にもクッキングを予定しているので、子どもたちの良い経験の場になればと思います。

来年度も、食育・クッキングなどを行ない、楽しく食べ物や栄養について知る機会をつくっていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

（管理栄養士　藤元）

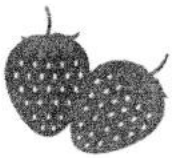
旬の食材について

旬の食材を食べることのメリットは、栄養価が高いこと、価格が安いこと、おいしさがアップすることなど様々あります。スーパーには通年並んでいる食材が多いですが、季節ごとの旬の食材を意識して食べると、楽しいかもしれませんね。

それでは、春が旬の食材をいくつか紹介したいと思います。

ブロッコリー

緑黄色野菜であり、カロテン、ビタミンC、食物繊維などを含み、積極的に食べたい野菜です。βカロテンが体内でビタミンAに変換され、目の健康や免疫力向上に役立ちます。



いちご

ビタミンCが豊富に含まれています。
ビタミンCはコラーゲン合成に関わるビタミンで、皮膚の健康に役立ちます。

春キャベツ

葉の巻きがゆるく、みずみずしくてやわらかいのが特徴です。生でも食べやすい春キャベツは、熱に弱いビタミンCを摂るのにも適しています。

お知らせ

◎お別れ会週間：３月２日（月）～３月 27 日（金）

※この期間は、お買い物学習やクッキングをすることがあります。実施する場合は、クラスやグループごとに担当からお伝えします。

◎役員会：３月２３日（月）　９時４５分～

◎今年度療育終了日： ３月 27 日（金）

◎新年度療育開始日： ４月　３日（金）の午後から

※新年度の利用曜日や時間などは決定次第ご連絡させていただきます。

☆就学に向けての学習会☆

１月２６日(月)に５歳児の保護者の方を対象に、先輩の保護者の方をお招きして体験談をお聞きする『就学に向けての学習会』を開催しました。学習会の資料をご希望の方はお渡しできますので職員までお声がけください。

＊ありがとうございました＊

今年度も『広報誌ひまわり』をお読みいただきありがとうございました。

新年度も引き続き広報紙を発行していきますので、何かご要望やリクエストがございましたら、職員に声をかけて下さい。

来年度もよろしくお願い致します。